

せいけん  
詩集

第百二十一篇

作：近藤せいけん

「ああ 東洋 白山の丘 その二」

春さくらの咲く頃 出逢い

四年の年月を過ごした

東洋の学び舎

懐かしい あの時代

それぞれの 白山の思い出

浮かぶ 恩師 友の顔 声

今も聞こえる

ああ 白山の時代

ああ 学生時代 幾星霜

共に過ごせし 君よ

今 いずこ

この丘に立つと

よみがえる

青い 熱い 時代

懐かしい 素晴らしい あの時代

風 学生街 白山の丘

今も変わらず

君よこの丘に 登れ

我が心の 故郷

